

# わかやま母親通信

第95号 2022年7月2日発行

発行 和歌山県母親大会連絡会 事務局 和歌山市小松原通3の20 和歌山県教育会館内  
和教組 TEL073-423-2261 FAX073-436-3243 母連メール：w\_haharen@wkn.or.jp

生命を生み出す母親は  
生命を育て  
生命を守ることをのぞみます

HP 和歌山県母親大会

## 第66回和歌山母親大会(オンライン併用)開催

6月19日(日)、和歌山市・プラザホープを会場として、第66回和歌山県母親大会を開催しました。3年ぶりに分科会を設定し、初めてオンライン配信にも取り組みました。全県からのオンライン参加者は100名近くになりました。

今回の県母親大会の開催に際し、大会テーマを

**自由・平等・多様性が尊重される平和な日本・世界を願って**  
としました。そして、主催者する側のコンセプトとして、

**願い・想い・要求を大切に 誰もが元気になる母親大会を創ろう**  
とし、実行委員会で一致協力して実現への努力を重ねてきました。

長引くコロナ禍の生活、気候危機への不安、そんな最中に起こったロシアのウクライナ侵略、それを利用する国内の改憲策動や軍拡の動きなど、大きな動きの渦中で、**だまされない、あきらめない、立ち止まらない**決意を新たに、頑張っていく元気につながる大会となったことを信じています。



### 明日へ

母親大会の会場には、久しぶりに顔を合わす人たちや初参加の若いお母さんたちもいて、県下各地で母親運動・女性運動を担っている方たちの姿に励まされました。運動交流で『公立病院に産科医師派遣を求める運動』を聞いて、地域で安心してお産ができない現実に驚きました。『ロシアのウクライナ侵略に抗議する取組み』では、初めてスタンディングに参加することへの躊躇や迷いがあったけれど、子どもの未来を考えて勇気を出して参加したお母さんに会場全体が元気をもらいました。『給食スマイルプロジェクト～県産小麦育て隊の活動』では収穫までの農作業に「すごく頑張った！」の言葉以外ないですし、昨年の報告から一層前進していて、ワクワクとパワーを感じました。『カジノ誘致反対運動』も、県議会で「誘致申請否決」となり、母親大会で報告された様々な運動が地域で地道に取り組みられ、実を結んでいることが実感できます。語り・学び・行動する大会の良さを再確認しました。 M. N.

## 参加者の感想から(全体会・運営)…分科会の感想は、次号に掲載します。

(オープニング)

\*『和歌山の自然・歴史・文化』のDVDを観て、和歌山にもまだまだ良い所がたくさんあることが分かりました。もっとその自然に触れていきたいと思いました。

(各地の運動交流)

\*『公立病院に産科医師を』は、「生命を生み出す母親は、」で始まる母親運動ですので、何としても地域に産科を確立してほしいと思います。龍神での戦争反対のスタンディングを、子どもとともに参加した若いお母さんに胸いっぱいになり、どこの地域でも戦争反対の大きな波を繰り広げていかねばと思いました。県産の小麦プロジェクトは、若いママさんの頑張りに頭が下がります。できるだけカンパに協力していきたい。

(記念講演)

\*世界中で起こる異常気象による大災害のニュースを見聞きするたび、これから世界はどうなっていくだろうと不安に駆られています。今日の講演では、世界のたくさんの国で再生可能エネルギーへの転換が進んでいることを知り、日本でももっと進めていけるよう市民自らが立ち上がり進めていかななくてはならないと思いました。そして、政府のエネルギー政策を動かしていく力になればと思います。



\*持続可能なエネルギーを主力とすることが、今いかに重要かと思い知りました。再生エネルギーを進めていかなければ、日本の未来が見えないし、地域・市民が中心になって運動を進めていけば公害問題も起きないし、社会の発展にもなるし雇用も生まれ収入も多くなり、生活の豊かになると目からうろこの講演でした。

\*地球温暖化を少なくするとりくみについて世界の状況を話され、少し分かった様な気がしています。日本は原発による発電に進んでいくことに、危惧を感じます。太陽光・水力・風力・バイオマス発電に国の予算をまわしてドイツやデンマークのとりくみに学んで進んでほしいと思います。



(様々なご意見)

\*オンライン視聴について、「居ながらに気楽に聞ける」といった声がある反面、「やはり慣れない」の声があり、今回は「聞こえにくかった」の苦情もありました。オンライン配信の工夫を重ねながら、気兼ねなく会場参加できる時が来ることを願います。

\*気候危機が身近な問題になり、再生可能エネルギーにも関心が高まっているからでしょう、様々な疑問・質問がアンケートに書かれていました。「安全な設置場所」「耐用年数」「身体に害はないか」「具体的にどう行動すればよいか」などの貴重な質問・疑問に、何らかの方法で答えていきたいと考えています



# 行 動 提 起

今、ロシアのウクライナ侵略で世界平和が危機にさらされ、ヨーロッパでは長年中立を堅持してきたフィンランド、スウェーデンの2国が NATO に加盟を申請し、再び軍事同盟の重みが増えています。

日本でもこれを絶好の機会に軍拡の大合唱が起こり、「9条で平和は守れない」の不安の声を増幅させています。そうでしょうか。ウクライナはロシアによるクリミア半島併合（2014年）の後、徴兵制を復活させ、西側諸国の援助により軍事力を大幅に増強したにも関わらずロシアに攻め込まれました。

日本では、2014年に集団的自衛権行使が閣議で了承され、15年には安保法制が成立しています。そして今、安保法制のもとで「敵基地（ミサイル基地のみならず指揮統制機能まで）攻撃」が可能となる攻撃的兵器の配備が準備され、南西諸島ではミサイル基地化が進行しています。

戦争は、ある日突然理由もなく始まるわけではありません。例えば、自国が射程内に入ったミサイルが、自国に向けて配備されているなら、「自衛」を理由に戦争はいつでも始めることができます。どの戦争も「自衛」の名のもとに始まったのは歴史の教訓です。軍拡こそ戦争を呼び込むものです。

漠然と広がる不安に便乗して、いま大声で煽られている大軍拡、軍事費 GDP 比2%、10兆円以上の軍事費こそ穏やかな生活を壊すもの。教育、福祉が削られ、「愛国教育」が強化され、戦争で死んでもいいメンタリティの醸成が進行するでしょう。ロシアでは、先日徴兵の上限40歳の制限を取り払いました。ウクライナでは、18歳から60歳の男性は出国を禁じられています。そんな世の中に移行するのはなんとでも止めなければなりません。

目前の危機は、去る5月23日、バイデン大統領が台湾有事への軍事関与にはっきりと「YES」と答えたことです。日米軍事同盟のもとで、台湾有事は日本有事に直結します。そんな恐ろしい事態を招くわけにはいきません。

戦争への道を止めなければなりません。

主権者は私たちです。

政治を動かすのは私たちの力です。

軍拡こそが戦争への道、生活破壊の道であることを積極的に訴え、大きな国民の声にして政治を動かしましょう。改憲を阻むために力を合わせましょう。憲法を守るために力を尽くしましょう。



2022年6月19日  
第66回和歌山県母親大会

# 大会宣言

いのち 生命を生みだす母親は いのち 生命を育て いのち 生命を守ることをのぞみます」の一つの想いで結ばれて、母親大会は60年以上歩み続けてきました。

本日の第66回和歌山県母親大会は、3年ぶりに分科会と全体会を開催することができました。さらに、初めてオンライン視聴を取り入れましたが、今後の母親大会の新しい形式への展開につながれば幸いです。

この間、新型コロナウイルス感染症が蔓延する中で、亡くなられた方、後遺症に苦しむ人、仕事を失い経済的にしんどい思いをする人が大勢出ましたし、行動が制限される中で、誰も彼も不自由な生活を余儀なくされてきました。憲法を生かし平和・くらし・環境を守る運動、核兵器禁止条約を広げる運動も、精いっぱい取り組めない悔しい日々が続きました。

そんな中で、和歌山県・市の「IRカジノ誘致政策」の頓挫は、全県的な宣伝活動と地域の粘り強い運動が相乗し実を結んだ成果であり、これからも続く各地でのさまざまな要求運動の希望の光になったと思います。

また、ロシアによるウクライナ侵略という出来事を目の当たりにし、世界中に、大きな衝撃、怒り、言い知れぬ深い悲しみが広がりました。一日も早い戦争終結を願い、そうした声が世界中からさらに沸き起こるように、それぞれの立場でできる努力をつくしていくことが大切ではないでしょうか。

母親運動は、「核戦争から子どもを守ろう」と行動をはじめ、「平和」「子どもの幸せな未来」「日々の平穏なくらし」「女性の地位向上」を求めて歩み続け、多くの願いや要求を実現させてきました。そして何より憲法9条を力に「他国と戦争しない年月」を守り続けことを心から誇りに思います。次の世代にも、この9条を無傷で手渡したいのです。

今、戦争に乗じて9条改憲や軍備の拡張を主張する声が大きくなっていますが、軍拡競争や力と力による対立は「戦争への道」であり、日本国憲法に基づく国民本位の政治と友好的・平和的国際関係作りこそ、日本のとるべき「平和の道」であると確信し、その声を大きく広げていきましょう。

**私たちは決して、だまされない。 あきらめない。 立ち止まらない。**

午前中の分科会で話し合われた想いや願いを大切に、全体会での交流や学習を力に、地域で、職場で、グループで、粘り強く運動を広げましょう。

そして、来年また、各地から願いと成果を持ち寄り元気に集まりましょう。



2022年6月19日  
第66回和歌山県母親大会